

受注量が拡大、4倍増も

東京冷空
事業協組

東京冷空調事業協同組合



沖原 正宜理事長

(理事長)沖原正宜氏、事務局・東京都港区新橋一―六(一八)による協組単位での設備工事受注活動が順調に規模を拡大している。東京都内各区や千葉、埼玉などの公立を中心とした学校での水蓄熱システムによる空調設備工事に於いて、同協組の強みの一つである広域ネットワーク力がフィットした格好。

最近の同協組の動向について、沖原正宜理事長は「事業の大きまかな構成は、昨年とほぼ変わらないが、工事量は急増している。特に、一件で十億円を超えるような自治体に關係する仕事、当初の狙い通り受注できるようになってきたのが大きい。昨年の売り上げは、一昨年とほぼ同額だが、今年は昨年比三・五〇四

最近少なくなき、この点につ

倍の四十億円超となる見通しだ。工事量の急増という事態を迎え、これを滞りなくこなしていることは、我々の水準の高さを表していると考えている。これは、協組の組織力とも言い換えられる。ローカルの設備工事会社にとって、は、単独でこのような急増需要には対応できない。複数の設備工事会社が、工事ネットワークを組むことで、短い期間に一千人の人間が現場で作業する案件でも、無理なく対応できる。我々は当初、専門的な技術力を持った集団であることを「強み」としてきたが、今後は、これに加えて、中小規模の設備工事会社のネットワーク力を生かした小回りの良さ、動員力も、セールスポイントになっていくだろう。我々としては、来年以降も拡大路線を継続するが、そのなかでは事故の発生リスクも当然、高まることから、現場における安全管理のさらなる徹底にも力を注いでいく。一つのミスや事故が、全体の退潮、衰退に結びついた例は

空調タイムス 9/19

いては、特に注意していく考えだ」と語った。